

1 単元名 今食べてるものは安全？

2 単元について

(1) 単元のねらい

- ・ 「食べること」にかかわる問題について知り、自分が興味や疑問をもった問題について、いろいろな方法を使って追究していくことができる。(自己学習能力の育成)
- ・ インタビューや実験・調査などで得た情報をもとに意見交換をしながら、自分の考えを明確にもち、それを適切な方法で表現することができる。(コミュニケーション能力の育成)
- ・ 『食』にかかわる問題を学び、自分の日常の食生活を見直し、これからの生活に生かしていこうとするとともに、地球規模の環境問題について自分の考えをもつことができる。

(自己とのかかわり・実践力)

(2) 単元の評価規準

(3) 単元の構想

学年テーマ『いのち』は広汎で様々な問題を内包している。このテーマに迫るために、最終的には地球規模の「環境問題」への取り組みを意識し、これからの生活の中で、当面する課題に自分がどう関わっていくかを自覚する必要がある。

自分たちの「命」を支えるものという視点から、本単元の『食』は児童にとって一番身近な存在である。『食』を年間の活動に位置づけたのは、「食」が自らの「命」を支えるものであると同時に、他の「命」を奪うことでもあり、自らの命を支える「生命」を尊ぶ気持ちをもつことが大きな要素と考えられるからである。

『食』にかかわる問題には、今回中心として取り上げられている食品の安全性の問題をはじめ、健康面の問題、食糧自給の問題、環境に関する問題、地域の文化、国際関係等々の種々の課題が含まれている。ここでは「いのちを支える食」の安全性について、児童一人一人の関心に基づいた追究活動を行っていききたい。

ふれる段階では、『食』に関わる様々な問題点を話し合い、各メディアからの情報にふれることによって、身近な食に関する環境問題を自分のものとしてとらえ、問題に対する感受性や関心を高めていききたい。

つかむ・追究する段階では、多くの情報の中から、二つの「共通体験」をもつ。一つは、食品添加物等の科学的な追究の仕方に触れる体験、もう一つは、食品製造や販売過程で人体への影響・健康への配慮など安全性への配慮を知り、社会的な視点での関心を高める体験である。それらの体験や、収集した情報を基に、児童一人一人の関心にそった活動にと考えているが、それぞれの児童の共通点や差異点に配慮しながら等質の小集団による追究をさせたい。そして、立場によって考え方に違いのあることや、物事を様々な方向から見たり考えたりするようにさせたい。環境そのものや、環境問題及び環境に対する自分たちの責任や使命について理解をしたり、環境問題を解決するための技能を身につけたり、多面的に評価する活動を通して理解を深めさせたい。

生かす段階では、自分たちが追究してきた『食』について報告しあったり、学習したことをもとに新たな段階に進んだり、環境問題を解決するために自分でできることを実行するなど、情報を発信し、実践をする上での糸口としたい。

ティームティーチングによる指導体制について

ティームティーチング(T.T)において、今回は特に以下のあり方を考えている。

個性差・個人差への対応

「興味関心や意欲」当コースの差異への対応＝興味関心・学習課題・予想・方法別選択学習の設定時

「学習スタイルやスキル」の形に対する対応＝体験型学習・文献調査型学習等への対応

「生活体験」の差異への対応。＝体験型学習を行う場合、その体験の違いによって学習活動が内容的・空間的に広がる。複数の教師が学習空間を分担し、一定の場所を固定して指導

一斉指導型援助方式(補助指導・特定の児童の指導)・学習進度による

グループ別指導方式(習熟度別・技能指導別・学習課題別)・技能の程度、興味関心等

個別指導方式(助言・相談指導)・学習スピード習熟度

今回のT.Tにおいては、特に、「興味関心や意欲」に基づくコースの差異への対応を主にT.Tを構成していきたいと思う。

特に自己の課題を複線にして追究し、それぞれの情報を交流させていくことで、いっそうの学習の深まりを期待しているため、それぞれの方法の良さを十分に活用し、相互に補う部分を明確にしながらか、方法別のグループへのT1、T2の関わり方を協議しあい、共通理解をしながら進めたいと思っている。

(4) 児童の実態 (男子17名 女子26名 計43名)

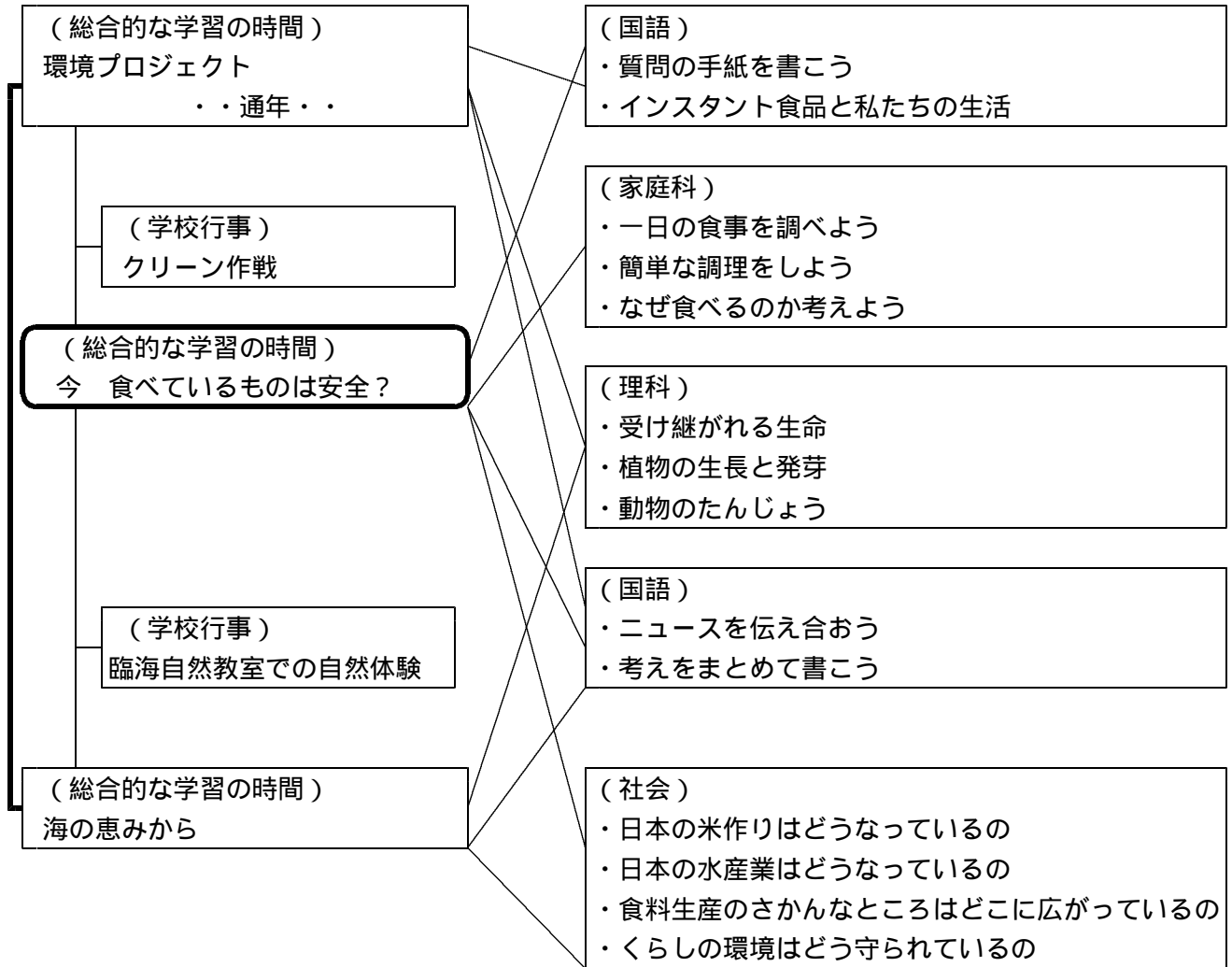
本学年の児童は3年の時に『ステキなまちを見つけよう』の活動で、郷土栃木市について環境学習も含め総合的に展開してきている。4年生では『すみよいまち』のテーマで、学校周辺の水に関わる環境問題、障害をもつ人たちにとって、住みよいまちづくり等、環境・福祉の面から『まちづくり』について考え、追究してきた。

本年度は、さらにその流れを受けて、環境とかかわり、自分とそれらを取り巻く多くの「命」との関係から、『いのち』を主たるテーマとして追究していく。『栃四環境プロジェクト』では地球規模で起こっている様々な環境問題から、その課題を身近な環境問題としてとらえ、自分の選択した課題について継続して取り組んでいる。

総合的な学習の時間での追究活動への興味関心は高い。しかし、適切な学習の課題の解決方法を考えたり、情報収集も図書やインターネットにたより、情報を自分のものとしてまとめていく力・わかりやすく表現する力など十分ではない。あわせて、その情報を具体的に伝え、表現していく過程での課題も残る。『いのち』のテーマを、本校の学校テーマ『共に生きる』とともに意識し、IT学習や英語活動なども含めた、他とのかかわりを大切にできるスキルを培っていきたい。

そのために、図書やインターネット等調べ学習の他、関係機関と連絡を取り合う際、「手紙」「電話」「訪問」等かかわりをもつために、カードにより例示するなど具体的なスキル提示の工夫をしたい。

(5) 各教科等での教育活動との関連



3 研究課題との関連

主体的に学び いきいきと活動する子どもの育成

ー生きる力を指向した「環境学習」を核としてー

各教科・総合的な学習との関連を具体化することにより、ふれあい体験の場を設定したり、地域素材及び人材、関係機関、施設の有効利用を行いたい。児童たちの生活の場である家庭や地域社会との連携を密にし、自然環境や社会環境を学ぶフィールドとして有効に活用できるように考えている。

一連の『食』に関する様々な体験や調査活動を通して、多面的に思考したり、収集した情報をもとに判断したりすることで、自然・社会のつながりや循環の考え方を育て、主体的に環境と関わり、環境を大切にしようとすることに繋がるだろう。そして、循環・共生型社会の実現や、一人一人の意識や意欲付けを学習過程に位置づけ、身近な自然や身の回りの環境への理解をし、自然とのふれあい体験や自然観察のをする中で「生態系」「物質循環」「共生」などについても学ばせたい。

4 「いきいき栃木っ子3あい運動」との関連から

今回、自分の命にかかわる『食』に関して、不安のない環境を追求していく活動を通して、身近な日常生活から見いだした課題を追究したり、解決方法を話し合ったり情報交流をさせたりしたい。一人一人の願いを大切に学習過程に留意していきながら、友達と協力し互いを高めあうことは、学びあいにつながると考える。

5 人権教育との関連

自分の食生活が、多くの『いのち』の犠牲の上に成り立っていることを考えることは、自他の生命を尊重する気持ちを育てることにつながり、基本的人権尊重の根幹に関わるものである。

自分たちの身の回りに存在する食を通じた環境問題について、科学的に見極め、解決策を導き出すとすることは、本校の人権教育において育てたい能力態度の「判断力」につながる。また、環境を守っていこうとする解決方法を考え、自分の生活の中で試そうと主体的に取り組んでいくことは、「実践力」を育成するものとする。

6 活動計画

(3時間)

段階	活動内容	主な支援	評価規準
ガイ ダ ン ス 3	『いのち』について考えよう ・5年生の大テーマである『いのち』から連想されることを出し合い、イメージを深めるとともに、1年間をかけて追究していこうとする自分のテーマをもつ。	・出されたイメージをまとめたものを見て、自分のイメージを広げたり、意見を交換したりする活動を行い、次の活動へとつなげていきたい。	身近な自然や人、社会に目を向け、興味関心のあるものの中から、課題を見つけることができる。 (自己学習能力)

(37時間)

段階	活動内容	主な支援	評価規準
ふ れ る 2 時 間	安心して食べられるものとは、どのようなものだろう。 ・自分たちで思いつく、食に関する問題点を考える。 ・家や学校などで、インタビューをする。 ・インタビューしてきたものをもとに話し合う。 【予想される反応】 ・賞味期限の切れていないもの ・狂牛病など細菌に感染してないもの ・遺伝子組み替えでない材料を使ってる ・農薬をあまり使っていないもの ・着色料や保存料などの添加物が少ない ・健康によいもの 家族からの情報など ・狂牛病 B S E ・トリインフルエンザ ・牛乳・農作物の値段・健康食品・調味料、甘味料、防腐剤等食品添加物・農薬 ・肥満・健康食品・ニセモノ食品等	・「狂牛病」・「食中毒」・「異物混入」など、最近の「食」と「安全」に関する話題を提示し、児童の意識付けを図る。 「食」と「安全」というテーマは生活に密着しているが深い認識がなされていない。家でのインタビューなどを通し、意識を喚起し、学んだことが生活に生きるようにしたい。 狂牛病の風評被害や異なった立場からの意見（遺伝子組み替えを肯定するなど）があることについてもふれるようにし、一面的な情報の扱いに留意させる。	身近な自然や人、社会に目を向け、興味関心のあるものの中から、課題を見つけることができる。 (自己学習能力) 目的に応じて、人や関係機関等に関わりながら、情報を集めることができる。 (コミュニケーション能力)
つ	共通体験 ~その1：着色料について知ろう~ ・実験をとおして、ふだん食べている食品に含まれる食品添加物について知る。	・着色料 = 悪者ではないが、健康に影響を与えるものを長期間に渡ってとり続けることの是非を提起する。 「地球のためにわたしたちができる	

<p>かむ</p> <p>7時間</p>	<p>(合成着色料と天然着色料で毛糸を煮染め、水に入れた後の色落ちの度合いを比べる 合成の方が色が落ちにくい)</p> <p>【材料の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飴・ジュース・かき氷のシロップなど <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>共通体験</p> <p>～その2：お店に行って，人体への影響や健康に配慮した食品を探そう～</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーマーケットなどに行き見学・調査を行う。 ・ 見学や実験をもとに，安心して食べられる食品について調べたことを情報交換する。 ・ 自分たちの課題を確認しあう。 ・ 発表を聞き，自分でさらに調べたい内容を決め，追究問題をつくる。 ・ 追究テーマを決定する。 	<p>こと4ー食べ物のためにできることー」</p> <p>図書資料(本校図書室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「もう一度考えようわたしたちの食生活」 ・ 「くらしの中の知らない化学物質」 ・ 「くらしの中の化学物質」 ・ 「食べ物を安全にしよう」 ・ 「環境ホルモンの話」 ・ 実際に食品を扱っている店舗などを訪問し，人体への影響や健康に配慮した製品がどのように販売(製造)されているかを見学し，食品の安全性への関心や課題意識を高める。 ・ 今までの活動で調べたことや，疑問に思ったことを振り返り，自分でさらに調べたいこと(課題)を考えさせるようにする。 ・ 情報の共有を図り，自分たちで体験しながら追究できる課題に絞る。 	<p>友達の取り組みや考えのよさに気づき，自分の活動に生かすことができる。</p> <p>(コミュニケーション能力)</p> <p>解決の見通しをもって，追究の計画を立てることができる。</p>
<p>追</p> <p>究</p> <p>す</p> <p>る</p> <p>18時間</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>追究の計画を立てよう(2時間)</p> <p style="text-align: right;">1/2 本時</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマごとに追究計画を話し合う。 *追究方法，体験活動等の追究活動計画 *発表の方法など <p>【テーマ例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 狂牛病 B S E について・農作物の安全(農薬)・有機農法について・食品添加物と影響・遺伝子組み替え・食品の安全性に迫る・食中毒・トリインフルエンザについて・健康食品・ニセモノ食品について ・ 様々な方法で情報を収集し，活用する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちの課題を追究しよう</p> <p>～「食」の問題について調べよう～</p> <p>(16時間)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループの追究課題，追究計画にもとづ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが調べたいこと，調べる方法を，具体的にもてるようにする。 ・ 様々な情報収集及び活用の仕方，検証の仕方を紹介する。 ・ 科学的共通体験(色素実験)から，食品添加物等の検証実験を行う。 ・ 社会的共通体験(スーパーマーケット見学)から，団体・組織・企業等より情報を得る。 ・ 書籍やネット情報の調べ学習を活用する。(インターネット，検索の仕方・ネチケット・情報の利用の仕方など情報スキルにも配慮する) ・ 多様な方法を用いて，課題が追究できるよう，グループテーマに応じた情報提供を，その都度教師が行えるようにする。 ・ 友達の発表を聞き，自分たちの課題との関連及び活動の修正などを考え 	<p>(自己学習能力) 学習課題を通して，課題に対する新たな自分の考えや広がりを感じることができる。</p> <p>(自己との関わり・実践力) 目的に応じて，人や関係機関等に関わりながら，情報を集めることができる。(コミュニケーション能力)</p> <p>活動を振り返りながら，計画を修正したり，解決方法を改善したりできる。</p>

生 か す 10 時 間	き追究活動をする。 ・中間発表会をし情報交換をする。 ・情報交換を参考に，さらに追究活動を進める。 ・調べたことをまとめ，情報を整理し，焦 調べたことをまとめよう	させたい。 ・調べたことをわかりやすく伝えられるよう，適切な表現方法を選択できるようにいくつかのプレゼンテーション方法を紹介するよう支援する。	(自己との関わり ・実践力) 調べたことや自分の考えを相手にわかりやすく伝えたり，発表や交流に意欲的に取り組んだりすることができる。 (コミュニケーション能力) 調べたことや考えをもとに，自分にできることは何かを考えて，進んで行動できる。 (自己との関わり ・実践力)
	点化する。 ・わかりやすい資料づくりをし，発表会の準備をする。 発表しよう ・パビリオン形式などで発表会を行い，それぞれのグループの発表を聞く。 ・友達の発表を聞き，自分にもできそうな実践の計画を立てる。	・聞き手に分かるように，工夫して発表することができるようにさせる。 ・他の発表を聞いて自分の活動を振り返らせるとともに，自分たちの生活に関わりをもたせた実践化への意欲を喚起させたい。	

7 本時の活動

(1) 活動名 追究の計画を立てよう

(2) 本時のねらい

- ・自分たちが追究しようとすることを，今までの情報をもとに見通しをもって話し合い，追究の計画を立てることができる。(自己学習能力)
- ・友達の取り組みや考えのよさに気づいたり，よりよい追究をするための計画をアドバイスしたりすることができる。(コミュニケーション能力)
- ・発表を通して，課題に対する新たな自分の考えや広がりを感じ，自分の活動に生かすことができる。(自己との関わり・実践力)

(3) 授業の観点

児童が，課題解決のための見通しをもち，今までに体験した追究方法や，やってみたい方法を取り入れて，計画を立てることができたか。またそのためのT.Tによる教師の支援は効果的であったか。

(4) 人権教育の視点

自分の考えや，意見を相手に分かりやすく伝えたり，友達の意見やアドバイスを受け入れて，よりよい計画になるように追及の計画を修正したりすることができる。(表現力・判断力)

(5) 展開

...人権教育上の配慮

...研究テーマとの関連

児童の活動		指導上の留意点	教材資料	評価
1 本時のめあてを知る 追究の計画を立てよう	5	前時までの学習を想起させ，見通しを持って取り組めるようにする。	・追究計画 カード	

<p>2 テーマごとに追究計画を話し合う。</p> <p>【テーマ例】</p> <p>添加物実験グループ 食料安全調査隊 食糧生産追究チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狂牛病 B S E について ・トリインフルエンザ ・農作物の安全（農薬） ・有機農法について ・食品添加物と影響 ・遺伝子組み替え ・食品の安全性に迫る ・食中毒・健康食品 ・ニセモノ食品ってなに等 	15	<p>体験活動をもとに，課題別グループを編成し，自分達のテーマについてイメージを整理させておく。</p> <p>T1, T2 が，それぞれのテーマ別に関わり，各テーマへの支援を適宜行えるようにする。</p> <p>様々な方法で情報を収集し，活用することができるように，調査方法，実験方法など，追究活動が広がるように例示しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的共通体験（色素実験）から，食品添加物等の検証実験を行う ・社会的共通体験（スーパーマーケット見学）から，団体・組織・企業等より情報を得たり，書籍やネット情報の調べ学習を活用する。 ・インターネット活用を活用する。（検索・ネチケット・情報の利用の仕方） <p>テーマ毎に，計画を立てる進度がまちまちになる事を想定し，進度別に対応できるようにしたい。（校外での活動も考え，アポイントメントの取り方・安全面での留意事項等についても確認するなど。）</p>	<p>・追究スキルカード</p>	<p>解決の見通しをもって，追究の計画を立てることができる。</p> <p>（自己学習能力） 〔観察・自己評価〕</p>
<p>3 各グループの追究計画を発表しあう。</p>	10	<p>他のグループの計画のよさに気づいたり，適切なアドバイスをしたりしながら，情報を交流させたい。さらによい計画にするにはどうしたらよいかアドバイスしあえるようにする。</p>		<p>友達の取り組みや考えのよさに気づき，自分の活動に生かすことができる。</p> <p>（コミュニケーション能力）〔観察〕</p>
<p>4 話し合いをもとに，追究計画の修正を行う。</p>	10	<p>他のグループの方法や，アドバイスなどをもとに，追究計画を改善，修正するか話し合う。</p>		<p>学習課題を通して，課題に対する新たな自分の考えや広がり気づくことができる。</p> <p>（自己との関わり・実践力） 〔観察計画カード〕</p>
<p>5 次時の予告を聞く。</p>	5	<p>次時は，追究計画と日程を調整し，活動内容や具体的な調査の仕方など，班毎に活動を始めることを伝える。</p>		